

第 96 回(H27 年度第 10 回)MT 委員会議事録

日時: 2016 年 2 月 23 日 15:00–15:55

場所: RIBF 棟 2F 小会議室

出席: 酒井^a(委員長)、阿部^a、福西^a、上垣外^a、加瀬^a、森本^a、櫻井^a、下浦^b、上野^a、上坂^a、上養^a、若杉^a、今井^{d,†}、本林^{a,†}、大津^{a,†}、田中^{a,†}、吉田敦^{a,†}、稲辺^a久保代、和田^c宮武代、大西純^{a,†}、大田^{b,†}、米田^a

欠席: 延與^{a,†}、久保^a、宮武^c、奥野^a、山口^b、羽場^{a,†}、森田^{a,†}、吉田光^{a,†}、岸本^{a,†}

^aRNC / ^bCNS / ^cKEK / ^dRIBF-UEC / [†]Observer

(順不同・敬称略。以下同様)

【報告】

1. MT 実施状況(米田)

MT の実施状況について報告があった。前回 MT 委員会以降、旧施設での実験課題を実施している。このあと 3 月半ばまで MT は実施せず、3 月 17 日(その後 24 日に変更)から生物照射実験で再開する。

2. MT 変更報告(米田)

MT スケジュールの変更について報告があった。RILAC 単独の NP1312-LINAC17-05(加治, ⁴⁸Ca@4-6MeV/u, GARIS2)を、実験開始が加速器トラブルで遅れた分の補償として 2 日間延長し 2 月 17 日午前 9 時まで実施した。また、3 月 22 日から 24 日に実施する予定であった CD15-01(山口&民井, ⁷Li@5.6MeV/u, CRIB)を、実験グループの都合(CRIB で不安定核を標的に打ち込んで JAEA に持ち込み実験する予定であったが、JAEA の加速器トラブルで実験が延期されることとなった)でキャンセルし来年度上期に再度割り当てる。3 月 31 日に予定していた ¹²C の生物照射実験は 4 月の一般公開時に実施することとし、3 月 31 日分はキャンセルする。

3. 加速器マシンスタディ報告(大西純)

加速器マシンスタディの報告があった。SRC の超伝導トリムコイルに使用しているエポキシの耐放射線強度を調べる目的で、66MeV/u の ⁴⁰Ar ビームを 1.5 日、E5A で使用した。アルミ板 2 枚をエポキシで貼り合わせ、その接合部にビームを照射した。ワブラー電磁石を使用して、71mmx56mm の範囲に均一に照射した。エポキシ接合部でのビームのエネルギーは 25MeV/u で、線量 0.1MGy から 10MGy まで 5 段階の照射量となるサンプルを合計 45 サンプル作成した。接合強度の変化は、引っ張り試験機を用いて仁科センター内でこれから測定する。

4. PAC 進捗状況(米田)

PAC の進捗について、以下の報告があった。

- ・ 17th NP-PAC:(12/1 - 3)

Call for Proposals は 7 月、課題申請締め切り 10 月上旬の方針。次回以降、課題提出締め切り後の差し替えは受け付けない。

- ・ 12th ML-PAC:2月16日、17日に開催した。
- ・ 4th In-PAC:1月13日に開催した。

【議題】

1. 前回議事録承認(酒井)

2. NP1312-RIBF113-01(大田)と NP1512-RIBF79R1-01(銭廣)の検出器同時設置(大田)

4月に実施する予定のNP1312-RIBF113-01の検出器と5月に実施する予定のNP1512-RIBF79R1-01の検出器を、それぞれの実験の際に同時に設置したいとの申請があった。NP1312-RIBF113-01では、120MeV/uの ^{132}Sn 2次ビームをF8に設置したアクティブターゲットCATに照射するが、この際下流のF12にNP1512-RIBF79R1-01で使用する検出器ESPRIをF12に設置しておき、ビームを使用して検出器の立ち上げ調整を行う。NP1512-RIBF79R1-01では、210MeV/uの ^{132}Sn 2次ビームをF12に設置したESPRIに照射するが、この際にCATをF8に設置し、(p,p')反応に対する検出器応答のデータを取得し本実験でバックグラウンドとなる重陽子のbreakupイベントの除去に使用する。検出器の設置や取り外しはそれぞれ想定されている準備期間、ビーム調整期間の内で完了することが可能で、他の実験に影響することはない。

審議の結果、同時に設置して実験を実施することを承認した。

3. 2016年度上期MTスケジュール(酒井)

2016年度上期のMTスケジュールの案がULICから提示され、意見の招集が行われた。春の新施設の実験は、4月1日に立ち上げを開始し、6月末に終了する。4月最初は ^{238}U で開始し、4月23日の一般公開後 ^{124}Xe に切り替え、5月6日にふたたび ^{238}U に切り替えて6月中旬まで実験を実施したのち、最後に ^{18}O の実験を実施して6月末を迎える。SAMURAI-TPCの実験が ^{238}U と ^{124}Xe で予定されており、SAMURAIでの実験セットアップ切り替えの作業時間を確保するため ^{238}U を後に回している。RILAC単独実験は、夏までに超重元素探索実験以外の実験をやり切り、夏期中断期間中にGARIS2のセットアップを切り替えて次の超重元素探索に向けた実験へ移行する。その他旧施設の実験は、7月、9月を中心に割り当て要求のあったものすべて、要求を満たすように割り当てした。

審議の結果、ULIC提案のスケジュール案の方針で進めることとなった。来年度の運転予算の確定が2月末頃なので、3月のMT委員会で最終的に承認を得ることとする。

4. 2016年度MT委員会メンバー(酒井)

来年度のMT委員会の委員構成の案がULICから提示され、意見の招集が行われた。来年度からCNSセンター長になる下浦委員、WNSCセンター長を務めている宮武委員はオブザーバとし、矢向謙太郎氏(CNS准教授)、和田道治氏(KEK教授)を新たに外部委員とする。RIBF-UECの議長がオブザーバとなるのが恒例となっているが、来年度からは磯部忠昭氏(櫻井RI物理研究室研究員)が務める。実験装置運転・維持管理室長の役職指定による委員は、主任研究員による役職指定とあわせて上野委員が務め、RIビーム分離生成装置チームのチームリーダーである吉田光一氏を正委員とする。理研外

部の委員は、矢向氏、山口氏(CNS 講師)、和田氏の 3 名となる。

議論の結果、ULIC 提案のメンバー構成で運営調整会議に諮ることとなった。

5. FY2016 年間 MT スケジュール(酒井)

来年度の MT スケジュール概要の案が共用促進より示され、意見の聴取が行われた。新施設での実験は、春は 4/1 から 6/30 までの 3 ヶ月間、秋は 2 月末に決定する運転費予算によって決めるが基本的には 10 月から 12 月にかけて実施する。来年度の予算については、運転費が 2 月末で確定するので、その時点で何日間実験を実施できるか決まることになる。委員の間からは特に意見は寄せられなかった。

6. 次回以降 MT 委員会の日程

- 次回 MT 委員会は 3/18(第 3 金曜日)10:30 - で調整する。
- 次々回 MT 委員会は 4/19(第 3 火曜日)15:00 - で調整する。
- 5 月以降の MT 委員会は 5/17, 6/14, 7/12, 9/8 の 15:00 - で調整する。

(以上)